



実用新案登録願

昭和49年1月31日

特許庁長官 齋 藤 英 雄

1. 考 案 の 名 称 ^{フリガナ} ハイエンヨリウチ 排煙処理装置

2. 考 案 者 (出願人に同じ)

^{フリガナ}
住 所 ①
^{フリガナ}
氏 名

3. 実用新案登録出願人

^{フリガナ} ^{フリガナ}
住 所 香川県大川郡大内町東地34の1
^{フリガナ}
氏 名 マツオカトミオ 生

4. 代 理 人 登 7 6 0

高松市郷東町583

(4566)

弁理士 馬 場 五 男

5. 添付書類の目録

(1)	明 細 書	1	通
(2)	図 面	1	通
(3)	願書副本	1	通
(4)	委 任 状	1	通

49 014283



方 式
密 査

明 細 書

1、考案の名称

排煙処理装置

2、実用新案登録請求の範囲

下側に油層(3)が上側に金属細片層(4)が夫々形成された
処理箱(2)を設け、前記油層(3)内に未処理排煙を^{導入するための排煙}導入
管(5)を設け、排煙を油層(3)に円滑に導入しこの油層を
浮上した排煙は金属細片層(4)を通過させ、その後この
処理排煙を大気中に放出するための吸出装置(7)を設け
て成る排煙処理装置。

3、考案の詳細な説明

本発考案は、重油等の燃焼排煙を簡単安価な構造によ
り殆んど無色無臭で低温なものに処理できる装置を提
供しようとするものである。

以下に本考案の一実施例を図面に基いて説明する。

(1)は僅突、(2)(2')は処理箱で、その内部には下側に軽油
(灯油)、重油等から成る油層(3)(3')がまた上側に金属
細片層(4)(4')が夫々形成される。この金属細片層(4)(4')は
金属物品の切削加工時に切りくずとして出る螺旋状鉄

条にて製作することが望ましい。そして前記煙突(1)の上端(1')から未処理排煙を油層(3)内に導入するための導入管(5)が設けられる。(6)は一次処理箱(2)で処理されたものを二次処理箱(2')の油層(3)内に導入する導入管である。(7)は吸出装置で、モーター(8)により回転駆動される回転軸(8')に装着された二つの回転翼(9)(9')と、外箱(10)とから構成され、この外箱(10)内の入口側には、二次処理箱(2')で処理された排煙を真空吸出するための吸出管(11)が接続される。また外箱(10)の出口側には処理された排煙を大気中に放出するための放出管(12)が設けられる。なお(13)は貯油タンク、(14)は汚れた油及び凝結水を排出するための排出弁である。また高温の排煙は油層(3)に導入する前に水で冷却するようにしてもよい。

本考は上記の如き構成であるから、排煙導入管(5)により一次処理箱(2)内の油層(3)に導入された排煙は、油層(3)中を浮上する間に殆んどの有害物質、すす及び水蒸気等を油中に溶出し又は吸着され、金属網片層(4)を通過する間に効率よく放熱すると共に残つた僅かのすす等を取除かれる。その後二次処理箱(2')で同様の処理を

受けて殆んど無色無臭で低温の気体となり吸出装置(7)の働きにより吸出管端から大氣中に放出される。

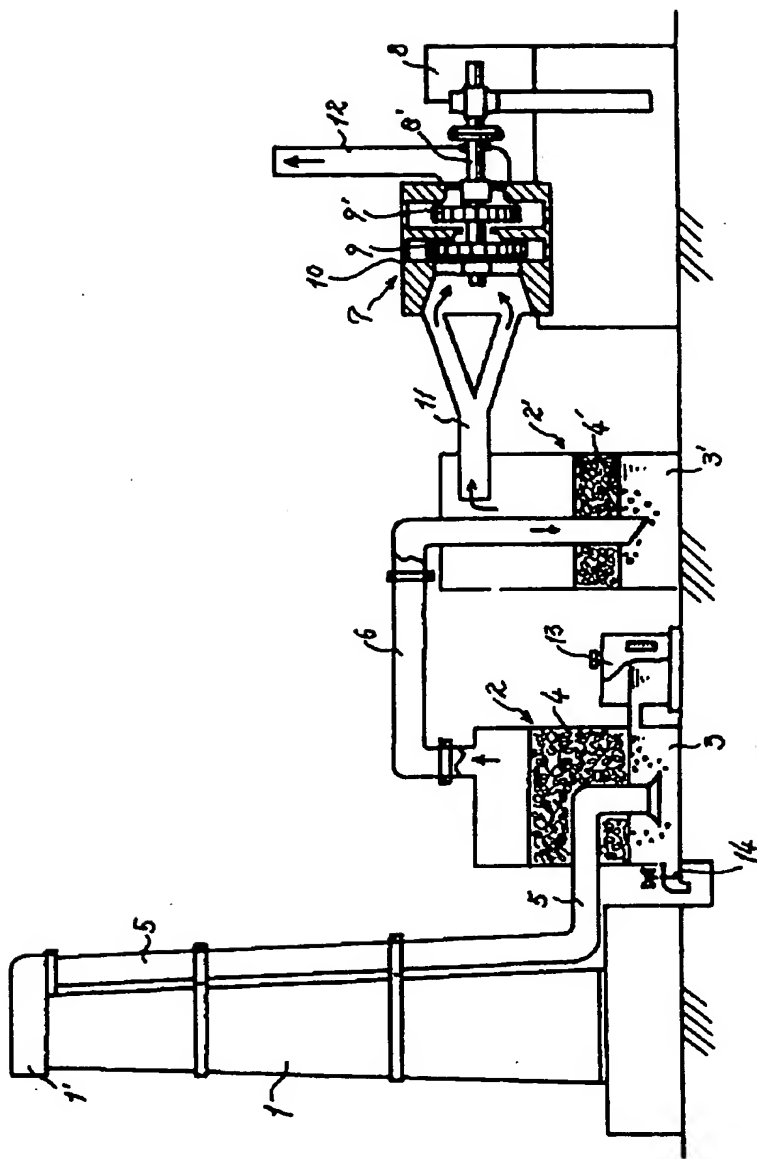
上記の様に本考案によれば、重油等の燃焼排煙は殆んど無色無臭で低温に処理できると共に、油層により金属網片層はさびることはなく、また排煙中^の水蒸気が凝結しても油層の低部に溜まり好都合であり、装置全体を簡単安価な構造にできる等極めて実用的な多くの効果がある。

4、図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示す一部切欠側面図である

出願人 松 岡 富 生

代理人 馬 場 五 男



出願人 松岡 富生
代理人 馬場 五男

102954